

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立島根中学校）

平成30年9月25日

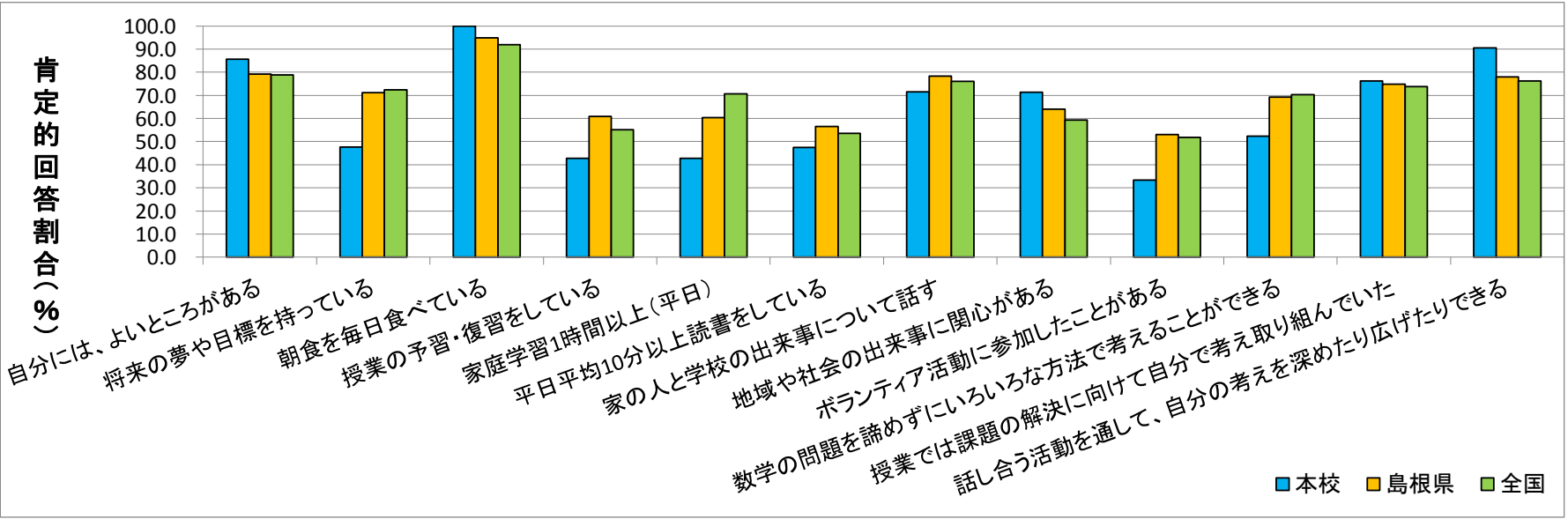
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○記述式の問題にすすんで答えようとしている。 ●「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率が低い。 ●漢字を書く問題の無解答率が高い。	○司会の役割や、話し合いの種類や進め方についての学習を行う。 ○家庭学習課題として漢字練習を継続して行う。
	B (活用)	○あらすじを説明する問題では県や全国に比べてわずかだが平均正答率が高い。(ただし無解答率も高い。) ●記述式の問題の無解答率が高い。	○伝える内容や目的、構成や根拠など条件付の小作文を書く機会を増やし、自分の考えなどを相手にわかりやすく伝える力を身につけさせる。
数学	A (基礎)	○「関数」の領域では、基本的な用語や表現は身につけている。 ●「図形領域」に関する問題の正答率が県や全国と比べて低い。 ●「数と式」の領域では、無解答率は低いものの、正答率は高くない。	○方程式を解く問題などで、形式的に解くだけでなく、意味を理解してできるよう、授業で細かく伝えたり、生徒が説明させたりする学習を取り入れる。 ○問題を解くときに、実物を準備し、視覚的な理解につなげるようにする。
	B (活用)	○記述は、自分なりの表現が身につけている。書こうとする努力は認められる。 ●割合に関する問題に課題がある。 ●思考を要する問題を苦手としている。	○復習問題をする機会を増やす。 ○難易度が低い問題から根拠を明らかにして筋道を立てて考える課題を増やす。
理科		○理科への関心が高い。 ●記述式の問題の無解答率が高い。	○自然現象とふれ合う時間を確保し、理科への関心・意欲を引き続き高めるとともに、記述や口頭でのふりかえりの時間を確保することで、知識の定着を図る。 ○定型文を活用した自由記述の練習を行う。

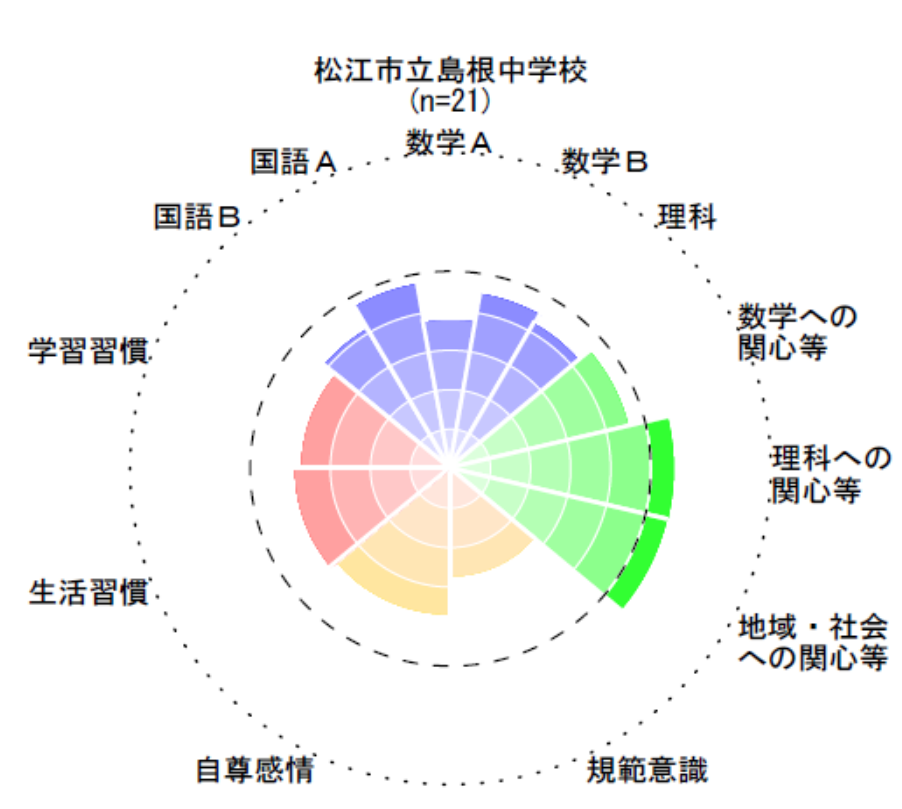
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
○肯定的な解答率が高い項目として「地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会」「自分の考えを発表する機会」「地域行事への参加」が挙げられる。総合的な学習の時間やふさと学習の成果であると考え。 ○「自分にはよいところがある」と解答した生徒の割合が高い。 ●「将来の夢や目標を持っている」がマイナス24.8ポイントと昨年に引き続き低い。 ●「学校外の学習時間」「家での学習」の肯定的解答率が低い。また、平日・休日ともに、メディアの接触時間が長い生徒が6割いる。	○「まつえ子ども夢☆未来塾」事業を活用したキャリア教育の充実をはかり子どもたちに「何のために学ぶのか」「自分の将来とどうつながっているのか」を意識化させ、学ぶ目標を持たせる。 ○体験学習等を通して、中学校以外の世界に触れることで、視野を広げ、自分の将来について考える機会を増やす。 ○全教職員で指導にあたり、朝学習の取組の改善をはかる。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

○島中スタイル（ユニバーサルデザイン）の視点を取り入れたわかりやすい授業を継続して行う。
○全国学力調査及び校内研究部アンケートをもとに、学年部ごとに課題を見つけ、その改善を図るための取組を行う。
○地域・保護者と共同し、子どもたちの学校外の学びの場の充実を図る。

【参考】

		平均正答率 (%)			
国語	A	74	76	76	76.1
	B	54	61	61	61.2
数学	A	55	65	64	66.1
	B	41	46	45	46.9
理科		61	65	66	66.1

受検者数 21 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。